

平成 27 年度の事業概況

営農事業

お米の振興

- コウノトリ育むお米など、環境に配慮した米の生産拡大に取り組むとともに、生き物調査や田植え、稲刈りなど消費者との交流会を通じて、産地PRと食農教育活動に取り組みました。
- コウノトリ育むお米生産部会は、環境に配慮した「コウノトリ育む農法」による米づくりの推進が、環境と経済が両立しうる事例として高く評価され、平成 27 年度但馬産業大賞(自然と共生する環境創造事業部門)を受賞しました。
- 酒造会社からの要望に應えるため、五百万石、フクノハナ、兵庫北錦の生産拡大に取り組みました。
- 積極的に米の直接販売に取り組み、特色ある但馬米の高付加価値販売を促進しました。
- ミラノ国際博覧会(ミラノ万博)へコウノトリ育むお米を出展し、日本館のフードコートでの使用を契機に、将来の輸出に向けた海外での試験販売を実施しました。

特産物の振興

- ピーマンの販売強化をはかるため、店頭販売の実施や、商談会等への積極的な参加を通じて産地PRにつとめ、販売高2億円を超えました。
- 朝倉さんしょの栽培本数増大に取り組むとともに、冷凍加工による通年販売を行い、ブランド力の強化をはかりました。
- 地域ブランド品目(岩津ねぎ、美方大納言小豆、高原大根、ハウレンソウ、トマト、梨)を中心とした部会活動の活性化に取り組みました。

営農指導・利用・資材・農機事業

- JAたじま独自の特別栽培農産物認定制度「コウノトリの贈り物」ブランドの運用など、安全・安心な農産物の生産・販売による産地の信頼度向上につとめました。

- 平成 27 年8月より、新たに環境に配慮した常温除湿乾燥方式の「こうのとりカンントリーエレベーター」の稼働を開始しました。
- 営農相談員やTACが行政機関と連携をとりながら、集落営農組織の検討会、人・農地プランの作成・見直しに積極的に参加しました。
- 鳥獣害の減少に向けて、但馬広域営農団地運営協議会と連携して対策研修会などを開催しました。
- 農作業事故時などにそなえ、農業者向け労災保険を広く活用いただくため、「JAたじま農業機械安全使用協議会」を新たに組織し、174 人の方が労災加入されました。

直売所の活動

- 開店5年目のファーマーズマーケット「たじまんま」は、地域の方はもとより、多くの観光客にご来店をいただきました。なお、平成 28 年1月 11 日には、オープン以来の来店者 100 万人を達成しました。
- 栽培講習会・出荷者大会では手取りの向上に向けて、新しい品目・花卉類などの情報を積極的に提供しました。
- 但馬農産物の宣伝・販売担当として、人型ロボット「Pepper(ペッパー)」をたじまんま店頭設置しました。
- 豊岡北、出石、香住、浜坂の朝市のほか、豊岡、日高、養父、和田山の量販店内のインショップ「農協の八百屋さん」として、直売所の活動に取り組みました。

畜産事業

繁殖和牛・但馬産肥育牛の振興

- 全国で子牛価格が上昇するなか、但馬牛の継続的な改良方針が高く評価され、但馬家畜市場は昨年に続き子牛平均価格全国 1 位となりました。
- 第 97 回兵庫県畜産共進会が丹波市で開催され、JAたじま管内から種牛の部 12 頭、肉牛の部に 7 頭が出場してどちらも最高位

を独占しました。

- 但馬牛の遺伝的多様性を確保するため、計画交配により熊波系・城崎系の系統再構築に取り組みました。

但馬牛のブランドを高める肉の店

- 兵庫県畜産共進会に出品された地元牛3頭を購入し、特別頒布企画や旅館やレストランでの特別メニュー用として販売しました。
- 但馬以外の方にも但馬牛の魅力を知ってもらうため、ふるさと納税の謝礼品としての提供や、インターネット販売に取り組みました。

福祉・経済・生活事業

くらしに安心を与える福祉事業

- 豊岡ショートステイ・豊岡東デイサービスセンターや七釜デイサービスセンターにおいて訪問介護・居宅介護支援・通所介護・短期入所生活介護と連携した介護サービスの提供を行い、利用者・家族の皆様へ安心・満足していただける施設運営につとめました。
- 新温泉町でJAたじま主催の介護職員初任者研修会(H 27.11.16 ~ H 28.2.25)を開催し、7名が修了されました。

くらしの安全・安心を守る生活購買事業

- 国産原料商品を中心とした、安全・安心でくらしに役立つ商品を、「JAくらしの宅配便」を通して女性会員や組合員へお届けしました。

快適で環境にやさしいLPガス事業

- 24時間365日体制で、利用者の保安体制を堅持しました。特に高齢世帯への配慮として、器具の点検と安全指導を行う「シルバーサポート活動」に取り組みました。
- 特別料金体系を設定し、灯油ボイラーから静かで便利なガス給湯器への変更をすすめる「燃料転換活動」に継続して取り組みました。

健康で文化的な生活を応援する生活文化事業・旅行事業

- 女性会の生活文化活動や健康福祉活動、組織購買に対する支援を行いました。
- 組合員の健康管理の一環として、町ぐるみ健診、特定健診を実施しました。また、ふれあい祭りなどのイベント来場者に向けた骨粗しょう症健診を実施しました。
- 各支部単位で年金友の会旅行を実施し、多くの方に参加・交流いただきました。
- JAたじま海外特別企画として、「フィリピンルソン島北部観光とマニラの旅」を実施し、豊かな自然が広がるリゾートアイランドをお楽しみいただきました。

信用事業（地域密着型金融への取り組み）

農業メインバンクとしての取り組み

- 「農業」メインバンクとして地域の営農振興をサポートするため、「担い手応援営農資金」等の提供に取り組みました。

生活メインバンクとしての取り組み

- 兵庫県下統一キャンペーンに加え、JAたじま独自の貯金キャンペーンを展開し、多くの方にご利用いただきました。
- 各種ローンの金利軽減キャンペーンを展開し、身近で安心な「生活メインバンク」としての機能発揮につとめました。
- 住宅ローン等の資金ニーズに対応するため、全店統一の休日相談会を開催しました。

利用者満足度の向上

- 各種研修会の開催や資格取得を通じて、職員の知識や対応力の向上につとめました。
- 組合員・利用者からの相談対応の場として、各種相談会を開催しました。
- 会員相互の親睦を深めるため、年金友の会で各種イベントを開催しました。

共済事業

ひと・いえ・くるまの総合保障の拡大

- 世帯の保障点検活動「3Q訪問活動」を通じて、JA共済の普及拡大につとめました。

もっと便利に、さらに安心

- 新たにタブレット端末「Lablet's (ラブレッツ)」を導入し、よりきめ細やかな保障点検と提案活動を行いました。
- 広域災害の発生に備えて損害調査体制の充実につとめました。
- 事故発生時の迅速な対応につとめるとともに、事故などに関して安心してご相談いただけるよう、弁護士による交通事故相談活動を実施しました。
- 子育て世代を応援する「JAたじまJA共済アンパンマン子どもくらぶ」の活動として、「アンパンマンショー」と「アンパンマン交通安全キャラバン」を開催し、多くの方にご来場いただきました。

組織面の活動

- 地域の活性化を目指し、組合員、支店運営委員会、役職員が協力して、「地域ふれあい活動」に取り組みました。
- ママ友くらぶの開催を通じて、子育て世代の女性を応援し、女性会フレッシュミズ会員募集などの仲間づくりに取り組みました。

教育・学習の活動

- 農と食のつながりを楽しく学び、但馬の農業を好きになってもらうため、地元の農家などに協力いただいて、小学生を対象とした食農体験教室「あぐりキッズスクール」を、竹野、香住、和田山の3会場で開催しました。

地域貢献活動

- 地域の活性化を目的に、婚活支援事業に初めて取り組みました。
- スポーツを通じた健康づくりや仲間づくり

を応援するため、「JAたじま杯」として地域のスポーツ大会(少年サッカー、小学生バレーボール、婦人バレーボール、少年野球、小学生卓球)に協賛しました。



【↑地域ふれあい活動（ふれあいまつり）】



【↑ママ友くらぶ（料理教室）】

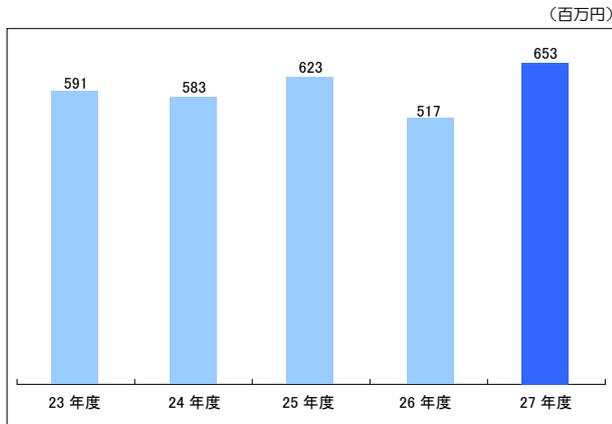


【↑あぐりキッズスクール】

平成 27 年度の主な業績について

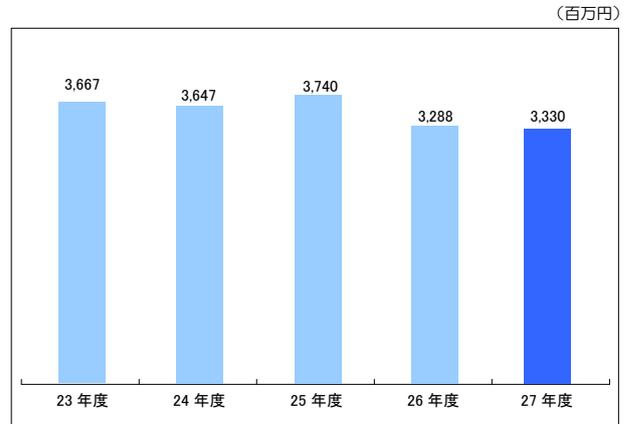
■ 事業利益

6 億 5,340 万円



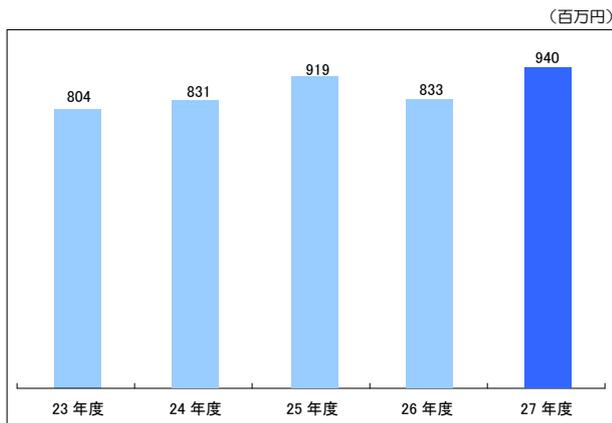
■ 購買品取扱高

33 億 3,020 万円



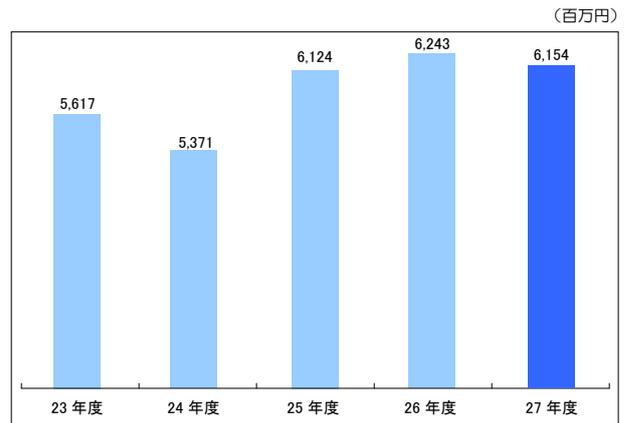
■ 経常利益

9 億 4,019 万円



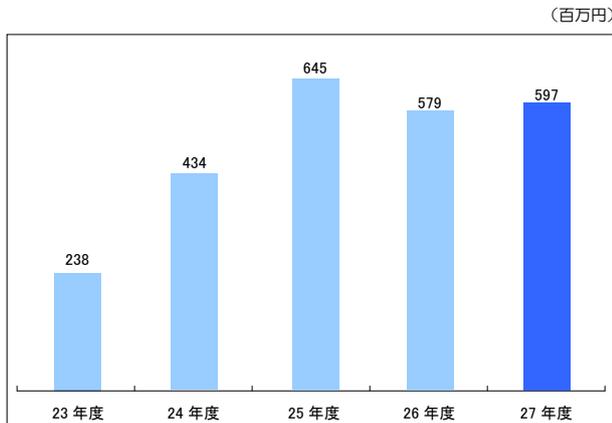
■ 販売品取扱高 (受託販売)

61 億 5,473 万円



■ 当期剰余金

5 億 9,786 万円



J A たじまでは、平成 25 年度決算にかかる配当より、出資配当に加え、新たに事業分量配当を導入しています。

これは、「協同組合は利用者組織であり、組合員の事業利用によって生み出された剰余金は出来る限り組合員事業利用者へ還元する」という考えから導入したものです。

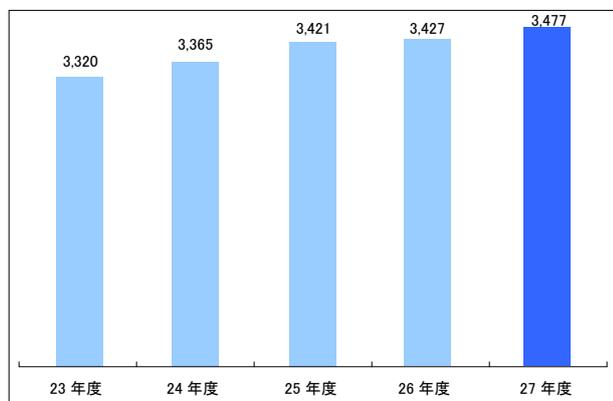
配当基準等については、42 ページの剰余金処分計算書をご覧ください。

平成 27 年度の主な業績について

■貯金残高

3,477 億 9,803 万円

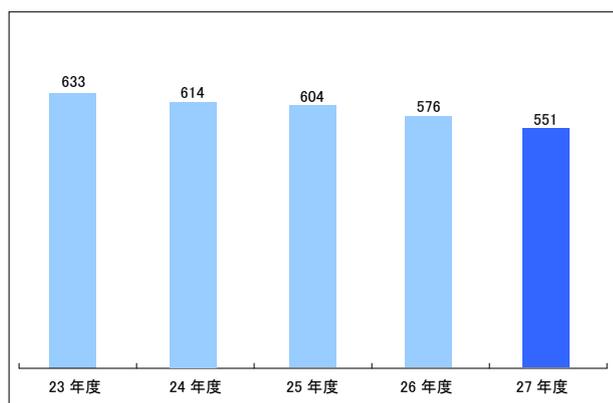
(億円)



■貸出金残高

551 億 1,303 万円

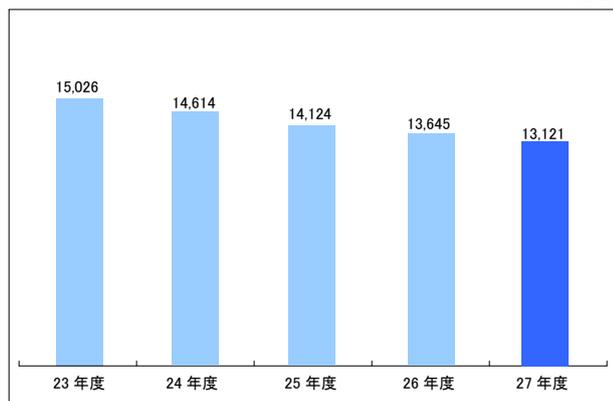
(億円)



■長期共済保有高

1 兆 3,121 億円

(億円)



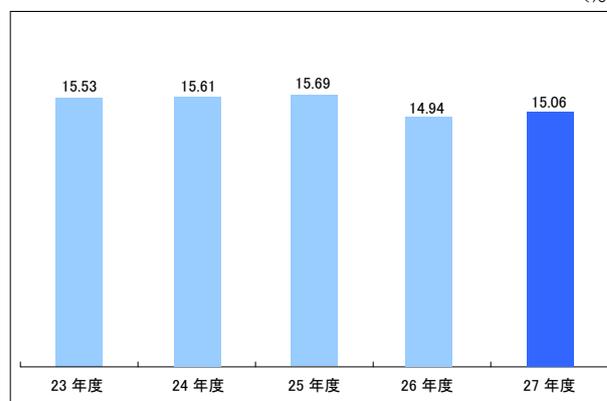
平成 27 年度の自己資本の状況

■自己資本比率

15.06%

当 JA では、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保につとめるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、平成 28 年 3 月末における自己資本比率は、15.06%となりました。(パーゼルⅢ規制に基づき算出)

(%)



■普通出資による資本調達額

項目	内容
発行主体	たじま農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る 基礎項目に算入した額	4,616 百万円 (前年度 4,656 百万円)

自己資本の詳細については、56 ページをご覧ください。